

1 子育ての楽しさについて

子育てを楽しいと『感じない』については、配偶者・パートナーとは、協力して子育てしたり、話し合ったりすることができていない傾向にあります。また、日常的に親族・知人の助けを得にくく、孤立しやすい状況であると考えられます。

- 『子育てを主に行っている方』についてみると、子育てを楽しいと『感じる』では、「父母ともに」が就学前で5割程度、「主に母親」が就学前で4割程度となっている。子育てを楽しいと『感じない』では「父母ともに」が約3割にとどまり、「主に母親」が6割半ばとなっており、母親に偏る傾向がある。【就問 7】
- 『子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人』についてみると、子育てを楽しいと『感じる』では、「配偶者・パートナー」が就学前で8割以上、小学生で7割後半となっている。しかし、子育てを楽しいと『感じない』では、「配偶者・パートナー」が就学前で5割程度（小学生で6割後半）となっており、子育てについて十分に話し合うことのない世帯が5割程度（小学生で3割以上）いると考えられる。
【就問 44 小問 28】
- 『お子さんのお世話を手助けしてもらえる親族・知人』についてみると、子育てを楽しいと『感じない』では、「日常的に手助けをしてくれる親族・知人がいる」が就学前、小学生ともに4割台となっており、全体と比較して低い傾向にある。【就問 42 小問 26】

2 子育て不安世帯について

※「問 47④子育てに不安や負担を感じるか」で「よく感じる」「時々感じる」と回答した方を「子育て不安世帯」として定義しています。

①不安の内容について

不安や負担の内容については、子育てに不安を感じにくい世帯と同様の項目が挙がっていますが、子育て不安世帯では、より割合が高い傾向にあります。

- 『子どもについての不安や悩み』についてみると、子育て不安世帯では、「子どもの性格や行動のこと」が就学前の「よく感じる」「時々感じる」で5割以上、小学生の「よく感じる」で7割以上と高い。
【就問 48-ア 小問 32-ア】

- 『自分のことについての不安や悩み』についてみると、就学前の子育て不安世帯では、「子育てで疲れること」が4割以上と高い。小学生の子育て不安世帯では、「自分の時間を十分にもてないこと」が3割台となっており、子育てに不安を感じていない世帯に比べ高い割合となっている。【就問 48-イ 小問 32-イ】
- 『家庭のことについての不安や悩み』についてみると、就学前、小学生ともに、子育て不安世帯では、「経済的な不安・負担」が5割以上と高い。【就問 48-ウ 小問 32-ウ】

②相談相手や子育ての状況について

家庭内や身近な人に子育てについて相談したり、手助けを得ることができず、孤立しがちな傾向にあります。

- 『お子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人』についてみると、全体では、「一人で抱えていることが多い」に就学前で4件、小学生で17件の回答がある。
また、就学前児童の不安や負担を『よく感じる』では、「配偶者・パートナー」が7割半ばとなっており、『時々感じる』～『全く感じない』と比較してわずかに低い傾向にある。「配偶者・パートナー」を選択していない2割半ばの方は、配偶者と子育てについて十分に相談できていないことが考えられる。【就問 44 小問 28】
- お子さんのお世話を手助けしてもらえる親族・知人についてみると、不安や負担を『よく感じる』では、「日常的に手助けをしてくれる親族・知人がいる」が就学前、小学生ともに4割後半となっており、『時々感じる』～『全く感じない』と比較してわずかに低い傾向にある。【就問 42 小問 26】
- 就学前児童の『各種事業等の認知状況』についてみると、就学前児童の子育て不安世帯では「保健センターのすくすく相談（育児相談）」「子育て支援センターの子育て相談」は比較的認知度が高い。また、「保健センターのすくすく相談（育児相談）」の利用経験については、子育て不安世帯で「はい（利用したことがある）」が4割以上、「子育て支援センターの子育て相談」の利用経験については、子育て不安世帯で「はい（利用したことがある）」が3割以上となっており、不安や負担を感じにくい世帯に比べて高い。公的な相談機関の中でも、すくすく相談や子育て支援センターが比較的身近な相談機関となっていると考えられる。【就問 38】
- 小学生の『各種事業等の認知状況』についてみると、「発達支援センターの相談」は全体で6割程度の認知度となっている。利用経験についてみると、「発達支援センターの相談」は子育てに不安を「よく感じる」で利用経験のある方が3割となっており、子育てに不安を『時々感じる』～『全く感じない』に比べ高い傾向にある。【小問 22】

3 虐待の傾向について

子育ての不安を『よく感じる』では、虐待についての認識が低くなっています。また、小学生については、子育てに不安を『全く感じない』についても虐待についての認識が低くなっています。

※「問 50 あなたが児童虐待だと感じるものは何ですか」で「罰として、家の外に出す」「しつけのために手を上げる」等について、○をつけた場合、「虐待と感じる」、○をつけなかった場合、「虐待と感じない」と仮定して分析しています。

- 『あなたが児童虐待だと感じるもの』について、子育ての不安度別にみると、就学前の子育てに不安を『よく感じる』では、「予防接種や健診を受けさせない」「子どものいる所で配偶者や他の家族に暴力を振るう」を除く項目で、全体に比べて割合が低く、虐待についての認識の差が見られる。【**就問 50**】
- 『あなたが児童虐待だと感じるもの』について、子育ての不安度別にみると、小学生の子育てに不安を『よく感じる』では、「罰として、家の外に出す」「しつけのために手を上げる」「言葉による脅かしや脅迫をする」が、全体に比べて割合が低い。また、小学生の子育てに不安を『全く感じない』では、「子どものいる所で配偶者や他の家族に暴力を振るう」を除く項目で、全体に比べて割合が低く、子育てに不安を『よく感じる』『まったく感じない』の両極で虐待についての認識が低い傾向にある。【**小問 35**】
- 『児童虐待だと感じるもの』について『しつけのために手をあげる』を「虐待と感じない」場合は、「罰として、家の外に出す」など、他の項目についても全体に比べて割合が低く、虐待の項目全体への認識が低い傾向にある。【**就問 50 小問 35**】
- 『子どもに特に身につけてほしい力や大切にしてほしいと思うこと』について、『罰として家の外に出す』『しつけのために手をあげる』を「虐待と感じない」場合の傾向をみると、「ルールやマナーを守ること（を身に付けてほしい）」が就学前、小学生ともに6割後半と最も高く、全体と比較して高い傾向にある。【**就問 45 小問 29**】

4 子ども同士の交流・子どもの遊び場について

河南小学校区、坂田小学校区、息長小学校区では、就学前、小学生ともに、子育てしやすいまちとなるために「遊び場（公園や施設）の充実」を重要視している傾向にあります。

山東小学校区、伊吹小学校区では、子どもの居場所づくりとして「子ども同士が交流できるような支援」が特に求められています。

大原小学校区、米原小学校区では、地域の中で「外遊びを中心に遊ばせたい」というニーズが高い傾向にあります。

- 『米原市が、今よりももっと子育てしやすいまちとなるために重要なことについて、小学校区別にみると、『河南小学校区』、『坂田小学校区』、『息長小学校区』では、就学前、小学生ともに「遊び場（公園や施設）の充実」が最も高くなっている。【就問 53 小問 38】
- 『子どもの居場所づくりのために、特にどのような支援に力を入れたらよいか』について、小学校区別にみると、「子ども同士が交流できるような支援」は就学前では、『山東小学校区』で8割程度、『伊吹小学校区』で9割程度と高い傾向にある。小学生では、『春照小学校区』『米原小学校区』『河南小学校区』で7割台と高い傾向にある。【就問 40 小問 24】
- 『地域の中でお子さんをどのような場所で遊ばせたいか』について、小学校区別にみると、「外遊びを中心に遊ばせたい」がいずれの小学校区でも高く、特に『大原小学校区』『米原小学校区』で9割程度と高い傾向にある。【就問 49】

5 就労状況と子育ての関係について

「経済的な不安・負担の有無」については、母親の就労状況（フルタイム、パートタイム、非就労（専業主婦など））による差は見られませんでした。

就学前では、父親の帰宅時間が遅い世帯では、子育てを主に母親が担う傾向にあります。また、育児休業を取得しない理由では、「配偶者や親族にみてもらえる」が高くなっています。

『仕事と子育てを両立する上で必要だと思うこと』では、就学前では、「放課後児童クラブや保育園などの整備」が母親の就労時間が長いほど、ニーズが高くなっています。小学生では、「同居の家族が子育てに協力してくれること」が就労層で高くなっています。

- 『家庭のこと（不安や悩み）』について、母親の就労状況別にみると、「経済的な不安・負担」は母親の就労状況による差はみられない。【就問 48-ウ 小問 32-ウ】
- 『子育てを主に行っている方』について、父の帰宅時間別にみると、就学前では、『16～17 時台』～『20 時以降』にかけて、「父母ともに」の割合が低くなる傾向にある。また、『20 時以降』では、「主に母親」が6割以上と高く、子育てが母親中心となっている傾向にある。【就問 7】
- 『育児休業を取得していない理由』について、父の帰宅時間別にみると、就学前では、『20 時以降』で、「配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が4割以上と全体に比べ高い傾向にある。【就問 29】
- 『仕事と子育てを両立する上で必要だと思うこと』について、母親の就労状況別にみると、就学前では、『フルタイム』『パート・アルバイト【月 48 時間以上】』で、「放課後児童クラブや保育園などの整備」が7割台と高い。【就問 33】
- 『仕事と子育てを両立する上で必要だと思うこと』について、母親の就労状況別にみると、小学生では、『フルタイム』～『パート・アルバイト【月 48 時間未満】』では、「同居の家族が子育てに協力してくれること」が5割以上と最も高い。【小問 21】
- 就学前の『放課後児童クラブの利用を希望する時間』について、母親の就労状況別にみると、『フルタイム』では、「下校時から 18 時まで」が4割以上、『パート・アルバイト【月 48 時間以上】』では「下校時から 17 時まで」が5割以上とそれぞれ最も高い。小学校低学年、高学年ともに同様の傾向にある。【就問 35】
- 小学生の『放課後児童クラブの利用時間（現在と今後の希望）』について、母親の就労状況別にみると、『フルタイム』では、【現在】【今後の希望】ともに「下校時から 18 時まで」が最も高く、次いで「下校時から延長時間（18 時 30 分）までを利用」が高い。また、【今後の希望】では、「下校時から延長時間（18 時 30 分）までを利用」が微増傾向。【小問 13】

6 子どもに身につけてほしい力やコミュニケーションについて

「自分の気持ちを表現すること」を身につけてほしいという家庭では、きょうだい間の関わり方や友だちとの関わり方、また、保護者と子どもとの時間を十分にもてないことなどが背景にあり、自己表現の大切さを感じている様子がうかがえます。

- 『子どもに特に身につけてほしい力や大切にしてほしいと思うこと』について、お子さんの人数別にみると、就学前では、『1人』で、「自分の気持ちを表現すること」が2割後半と全体に比べ低く、「友だちや身近な人と親しみ、関わること」は『2人』『3人』に比べわずかに高い傾向にある。お子さんが『2人』～『4人以上』では、「自分の気持ちを表現すること」が『1人』に比べ高い傾向にある。特に『2人』では4割程度と高い。【就問 45】
- 小学生で『自分の気持ちを表現すること』を身につけてほしいと思っている方の『子どもについての不安や悩み』をみると、「子ども同士の交流のこと」が高い。『自分のことについての不安や悩み』をみると、「子どもとの時間を十分にもてないこと」が3割以上と高く、子どもと友だちとの関わりの様子や、保護者自身が子どもと十分に関わることができていないことから、自己表現の大切さを感じていると考えられる。【小問 32】